



「銅山川地区地すべり防止工事」 見学会を開催

—— 山形森林管理署 最上支署

当支署では、地域発案システムの一環として、治山事業を地域住民の方々に広くPRし、理解を深めていただくことを目的に2回の見学会を開催しましたので紹介します。

見学会は山形県大蔵村の「銅山川地区民有林直轄地すべり防止事業」施工地内において実施しました。山形県が昭和27年より地すべり対策に着手していましたが、地すべり防止区域指定の規模の拡大、高度な技術の必要性から、山形県・大蔵村等の要請により、平成4年から平成30年までの計画で、国有林主体により様々な工種を用いて対策工事に取り組んでいる箇所です。

第1回は8月29日(月)に大蔵小学校6年生25名、第2回は10月1日(土)に一般募集の15名の参加者を対象に行いました。見学会に当たり、杉崎支署長から「森林は生活に欠かせない様々な恵みをもたらしています。私達はこの森林を次世代に引き継ぐべく色々な事業に取り組んでいます。今日は安全で有意義な見学会になるよう期待しています。」と



大蔵小学校記念撮影

挨拶がありました。概要説明の後、トンネル工事班・地すべり滑落崖等地上部班の2班に分かれ交代で見学しました。トンネル内の子供達は日常乗ることのないトロッコと暗い坑内の緊張感からか無邪気にはしゃいでいましたが、大規模な地すべり断面等の説明では真剣な面持ちで聞いていました。一般の参加者からは「普段見ることのない工事と自然の驚異、又、たくさんの予算支出に驚きました。」と感想があり、終了後には両見学会とも「貴重な体験と親



海外地すべり研究者への説明

切丁寧な説明ありがとうございました。」と感謝の言葉が聞かれ無事終了しました。
今年はこの見学会以外にも遠方の工業高校や地元住民の見学、又、日本でも有数の地すべり地帯の工事として、海外の地すべり研究者の視察なども行われました。
今後も見学会を継続し、自然景観との調和に配慮し、人々が安全・安心に暮らせる環境を守る治山事業を、多くの方々に積極的にPRしていきたいと考えています。